

壬生寺縁起

冊

和書門類
三五〇三七號
一二函
八架
三冊

和書類
三五〇三七號
三冊
一二函
八架

(三中)

内閣文庫
番號 和 35037
冊數 3 ( 3 )
函號 192 120

下

卷三



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

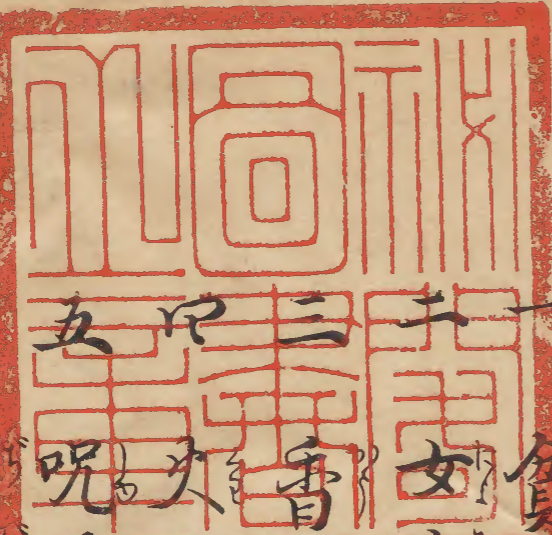


© Kodak, 2007 TM: Kodak



編脩地志  
備用經籍寺

縁起卷下



一 貧尼に 代下の 債もの と 贖あつ 行ま ぬす 中

二 女 人 腹 此 病 亦 服 乃 中

三 香 勾 高 遠 身 子 代 行 乃 中

四 大 災 亦 ぬ 乃 中

五 呪 咀 乃 難 亦 ぬ 乃 中

六 地 藏 菩 薩 の 引 守 依 下 條 統 正 念 得 定

七 本 尊 此 茶 湯 亦 請 下 病 苦 亦 免 乃 中

八 絹 亦 焦 亦 難 紙 亦 ぬ 乃 中



九 當寺に砂と受て産婦平安と切申  
十 當寺壇供の功德付小兒急難と免御申

壬生寺縁起卷下

茅一貧尼に代て債と贖給ふ申  
才八十六世に條院の所。延應年中。弟に  
家貧一兒尼あり。人々養ふとかりける。此に  
あゆふかえびし。年重りけし。利益とふ  
ぬき。一倍もさし。がわん人もはましくん  
ふへ。れも。中ら。貧く。て。かりある。後れ。  
まに。く。か。めり。候。き。ん。ま。か。て。法。本。  
尊。子。祈。を。し。中。に。い。と。せ。ら。し。も。時。通。お。し。て。  
し。り。も。あ。は。し。寶。号。と。し。て。印。へ。は。喜。在。り。

乃利生と此れ。我をさしけり。おれいしくあまを  
志り。まじりこころにい。やまきこり。此僧のまじ  
て。いしくぬ。いぬ。ぬがぬ。ぬら。ぬら。道よ。道  
まじり。僧よ。まじり。宣ら。失行よ。いす。免  
て。まじり。いす。いす。ぬ。ぬ。いす。いす。免  
も。まじり。いす。いす。いす。いす。免  
まじり。いす。いす。いす。いす。免  
乃中にも同行よ。は。まじり。いす。免  
り。いす。いす。いす。いす。免

に。か。り。い。す。い。す。免  
持。い。す。い。す。免  
と。童。二。人。推。乃。一。物。を。て。尾。よ。い。す。免  
かりぬ。呼。財。寶。盈。溢。乃。撰。ん。え。い。す。免  
字。人。を。い。す。免



茅二女人腰れ病平服乃中

才八十五也。後堀河院の御宇。貞應年中。ある  
回舎女房。腰れ病と称り。大秦北薬師より  
祈り。詣仰り。る。又。より。あら。く。お。こ。ら。る。  
か。く。は。ち。よ。入。雨。の。晴。る。候。か。ら。て。日。も。暮。ま。せ。  
ま。い。心。乃。外。る。所。堂。よ。通。お。し。ら。る。と。ま。し。付。  
乃。執。行。蓮。支。房。と。い。ふ。人。本。考。れ。此。前。よ。り。お。  
ら。れ。ら。る。り。び。り。や。り。靴。ら。ら。る。て。通。お。し。仰。る。  
ら。ゆ。ら。ふ。此。女。房。志。う。く。れ。半。に。か。ん。と。結。ぶ。  
や。く。東。北。局。へ。詣。入。り。し。ら。り。て。本。考。れ。靈。

験が。い。は。語。る。の。女。房。く。た。し。と。記。し。佛。と  
も。あ。ら。ざ。り。し。と。い。ふ。い。と。あ。ら。う。と。も。仰。ら。る。所。也。  
お。く。る。雨。の。ど。ろ。ろ。り。中。よ。り。と。海。も。さ。く。  
せ。乃。え。あ。ら。う。に。し。ら。や。ゆ。い。に。信。と。し。ら。る。所。  
お。も。唱。へ。て。む。ら。う。と。病。苦。平。服。せ。ん。中。と。い。  
祈。り。な。り。ける。夜。を。し。ら。い。あ。ら。て。ま。ら。し。ま。さ。ら。  
ま。ら。し。に。ま。ら。し。の。夜。と。行。つ。る。な。し。と。記。し。此。後。  
此。帳。の。内。より。ま。出。と。せ。祈。て。う。ま。し。あ。ら。中。の。い。ま。  
い。ま。ら。て。と。し。ら。し。と。宣。ふ。と。見。て。ま。ら。ら。あ。  
ぬ。い。と。靴。も。く。う。ま。し。て。七。日。奉。納。し。て。い。

いゝ忠義と頼なりきり。是にて七月了みらぬ  
所在れ等。乃に僧。おあしりまゝ。所性乃  
内らし物とせ行な。いよとれつく。此女房は  
脈と按摩せしと結つ。方の毛よりらきり  
らて。夏とやぬ。翌日らし。所勞きりまら  
い。冬とくくふ威く。古郷らし。ゆりまら

茅三香勾高遠。身代了行。あま  
才九十七也。光明院の川守。康永年中。備後  
三郎と徳む。新田義貞と與して。是利  
考氏といふ。らんら。於新田義治と大將と

て。考氏とつ。ふきんや。究竟れ恐乃者。と。口  
條在中の色。と。は。と。て。時節とら。い  
。京兆尹都筑入る。と。せ。二百餘騎。と。  
五十れ宿。押寄る。義と。ち。兵を。矢程の  
。い。射。尽。して。皆。腹。切。て。死。ま。り。殊。る。興  
。黨。の。皆。殺。し。に。落。失。ぬ。を。申。す。武。藏。守。の  
。任。人。香。勾。新。九。末。門。と。遠。と。い。ふ。者。は。も。十。重  
。井。重。と。名。を。い。ふ。軍。勢。は。中。と。打。破。り。て。此  
。地。武。藏。堂。と。名。を。入。い。つ。に。り。方。氏。隠。さ。す。也。  
。あ。ま。の。あ。れ。と。見。ま。ん。を。亦。り。ち。僧。と。れ。り

さ法師一人堂裏らりし物く。遠よりあつ  
ん根此并りていめあやう。其太刀は法念珠  
もどりあつて物行へてえけい。なみりして法  
法師のいふは後で。以大神通方便力。句令  
墮在諸惡趣し。ころころ居りりる。更  
おまに五十人堂此大庭へきり入。いと  
あつて。物くあなかく披く。もして。只  
るを此糸織の人と思ん。敢てとくえあつ  
む去なり。物くあなかく。お切り。わが  
て。鋒は血乃はと。る太刀と。神の下に。し

と見て物く。法師堂此傍に。まゝ見え  
て。さるるに。落人ともあつて。二三人きり  
きて。打倒し。手小手にいり。侍所ふ  
後。都筑入道うきぬて。結筑此中に。り  
入。りける。誓固れ武士。目も放。筑乃と  
と。い。く。と。あ。て。守。居。に。日。成。て  
此囚。れ。失。に。り。れ。武士。と。あ。つ  
と。其。跡。と。し。し。小。馨。香。芬。郁。と  
あ。く。解。も。と。ま。る。恰。も。牛。頭。旃。檀。の。さ。ら。と。  
し。れ。と。あ。つ。は。囚。と。獨。捕。し。者。も。尤。右。の



紅鎧の神子摺やて異香よそ見て。かゆく  
失せやびんいらあがり。もろく中にお  
そとて。當ちよまあり。此圖子れ戸と開きて。  
おしなれ。のりせぬも。地我喜薩のれ  
身。而く刑鞭乃らに。後黒とらり。もろよ  
手にいやり。繩のれ衣れうよ。のり  
しと不思議か。いやりえちりし。武士三人。  
いれとろく。あつて。發露沐浴して。罪  
障と懺悔。それも。ゆるぐ。息ら。誓切て。  
發心修行。れろ。成る。修る。道。願

縁よ。依く。命と。た。は。武。士。を。送。別。の。依  
て。喜。得。れ。道。よ。入。中。あ。か。り。今。世。後。世  
能。引。道。守。乃。擔。願。れ。も。く。は。お。ほ。し。何。也



茅四火災よまぬく中

洛下錦小路猪熊乃造り工匠よ家業に  
執者あり多る。當ち此地藏菩薩よ信じて  
常に歩みと人ことなる。或夜まほよいぬと  
する時、燈籠れ火よもさんやあらはる。  
はらまひてやうそんて寝入り。種よ燈籠の  
火燃らばて燈籠中やけてあきりへり  
ぶりやんとする時、法本書屋中よあきせぬ  
ゆゑ、今出火せんとするに、いゝくせくゆゑ  
にもあきりやあら。あきせぬ一けりて見て

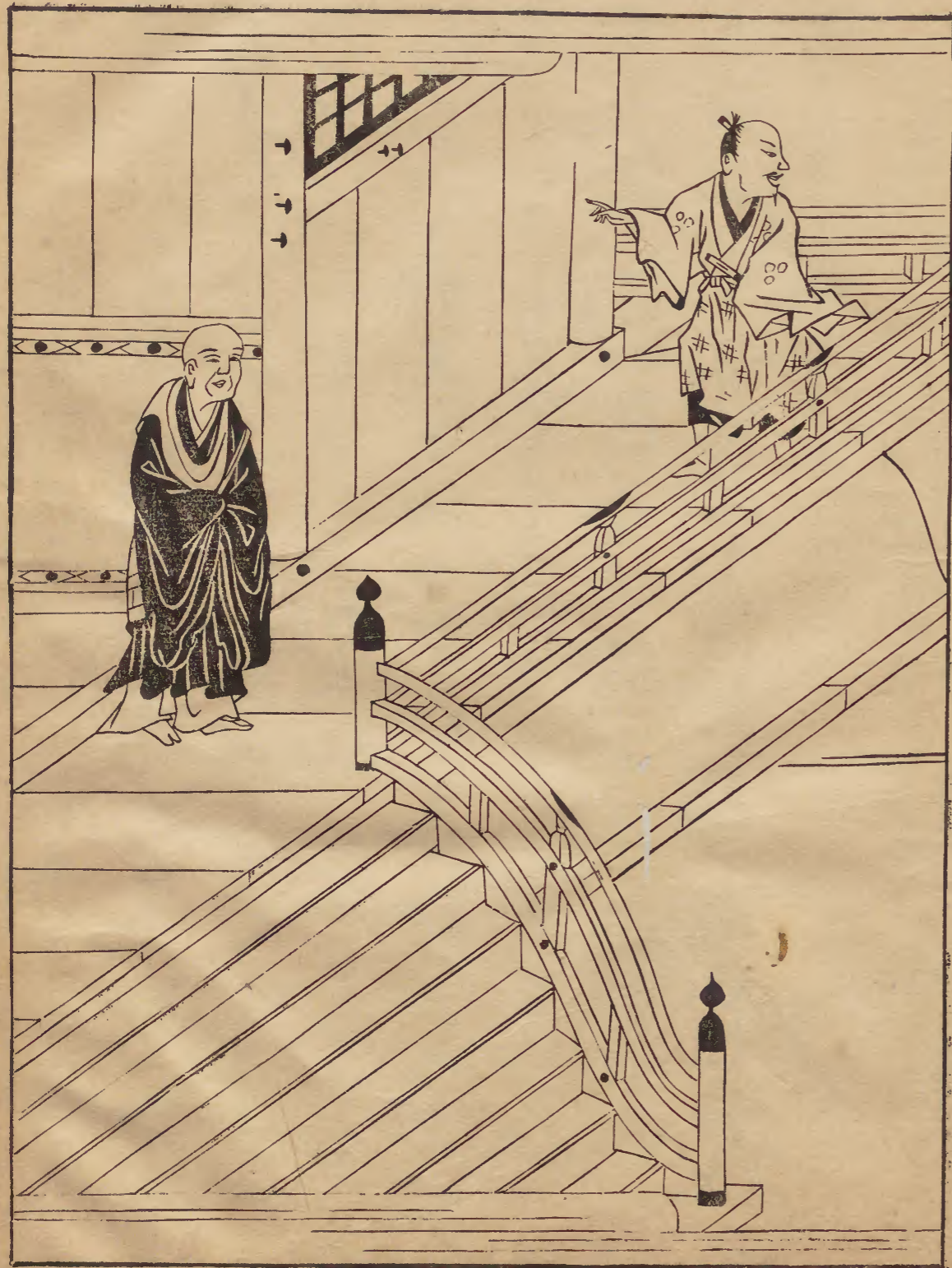
爰覺ぬ此男ありていん起あきせ。火れ  
光爛らうて登れ。いづらけらる。  
中よりかんれり。此今百由旬内無諸災患  
乃に憐唐猶あり。いんや人信心深厚より  
ゆりきり

茅五呪咀乃難よまぬく中

洛陽二條やうにむらさき書常に當寺  
乃地苑菩薩よ信じてまけらる。或時平産  
して七夜もあきり。いんやらひるやうに  
て身疥もいゝ。苦痛しる。醫療さほぐふ

一 悔きしものかひく效驗がく時よまのぐら  
みえしけし親類眷属のほごらぐら  
に愁歎れ神と志りせんぬく終雪れ心  
ちふきぬけり程に此女とや目よら  
さていつるいもぐら今志りもごら  
おにけれ地産菩薩まのせ行ひく何ら  
るぬく魚の苦痛とより不便ゆきぬ  
とれりよ去きてまに本堂乃たれ程  
釘よりら又ち井の中へ水神の祈念  
て竹釘と沈めらるる此慈念れがとわざ

しめてめれ苦痛とがらんうきゆき人  
は釘よりし先へ病苦速よ平念ま  
あつたよ示現とやうりしとびり  
も後ちうりて安所の釘とよりて  
えけしに座申れ人とす信す不位  
と産後れ苦痛よと人言譚語  
いつもありあつた又めらたり  
おほく見聞中に悔きしとす譚語  
定ちめらあつてせんまらとて  
に生るよらて點檢するに果して本堂



下之十

乃櫃よりぬく打入り釘二本あり。さきおぼしき  
もてぬき出。此うへを井乃申にも必死  
あらんやどくして井の田をわづらひし  
む竹釘二本とえらり。挽いひらんどのうき  
とわけて。病家よりゆりまうに。産婦身心乃若  
痛ららりやきて。種なくまらるに成ゆり  
り。経る。厭鬼呪詛起屍毒も還て本人  
みけんや説けつる。擔約。病一のしんや信  
をうらひし。

茅六地蔵此釘守に依る縁起正念とゆへ申

下京道より當古れ地蔵と信じて。年々り  
歩ととしらふ。二人の俗士あり。同信れ友といふ。  
信家も病をけさる。まらむつ。心くらく。至  
中よ誦物も必二人もむらむら。物も  
あらし。先づき。心もいらりて。此三人の中一  
人先きに。此世に。わがふれや。縁起とら  
がれ。うらむ。見らる。心く。付生。心  
こげ。んや。も。に。地蔵菩薩ふも。  
き。ら。極楽浄土。守。祈り  
なり。時一人。男。同行。乃男といふ。

主生にちかでんうきまらるるに。俄に病し  
ぬく。えんんしきくに。おらまを付く。い  
に。行なわらるる。や。い。わ。け。ま。い。は。男  
子。年。より。病。も。に。生。に。あ。と。ん  
こ。い。る。れ。時。か。の。喜。蔭。れ。前。て。い。も。く  
も。成。か。ん。と。願。り。に。ま。て。よ。今。と。い。り。や  
かり。身。心。い。し。く。く。い。も。い。る。く。  
とも。是。て。今。い。ら。く。よ。い。色。と。執。な。り。此。に。  
い。う。主。生。う。ち。か。で。年。より。れ。れ。い。乃。く  
あ。ら。り。行。り。で。極。樂。淨。土。に。引。寄。せ。り。行。入

也。祈りてきへ。と。双。眼。は。涙。と。う。く。掌。と。合  
せ。誠。に。心。入。ら。り。ま。ま。と。り。に。も。又。長。も。是  
え。て。神。と。う。い。わ。れ。其。を。極。速。留。ま。ん。と  
小。の。は。ま。の。領。事。と。主。生。に。ち。か。で。ゆ。り。ま。ら  
ん。す。と。い。く。世。の。い。は。れ。も。と。思。は。れ。ま。す。  
や。く。誦。は。り。香。花。の。せ。の。男。は。れ。を。と。ん  
念。は。り。祈。念。し。て。ま。ま。に。病。家。に。い。ら。り。て。極。く  
心。と。け。り。て。あ。ら。り。入。病。に。い。ら  
こ。う。て。見。え。け。れ。い。ら。り。ま。ま。に。れ。ゆ。ん  
と。思。は。れ。ぬ。い。ら。り。ま。ま。に。ゆ。り。ま。ま。に。

をばよき事にも思へり候へどもわが心もわが心も  
<sup>甲</sup>も次々そやうにあらはれ候へども只今此が  
同行乃男と縁終を付され候もらう  
かきう縁より申候事いふ道守に候と申  
う現ゆきや云とてさねむのうらら候  
いそと走り出候に方と召れ候申一人  
一はてと疑りもが現地蔵菩薩の住者  
に候縁終を付され候とて申候  
人れ辨と見候よと現よと申候  
ふし候事いとぞと申候よ病人れ候

今り候事いとぞと申候よ病人れ候  
いと長文でぞと申候よ病人れ候  
あつと申候事いとぞと申候よ病人れ候  
乃男に候事いとぞと申候よ病人れ候  
いとぞと申候事いとぞと申候よ病人れ候  
候事いとぞと申候事いとぞと申候よ病人れ候  
ぞやいと申候事いとぞと申候よ病人れ候  
乃新ら成就して菩薩の接引に候事  
いと候事いとぞと申候事いとぞと申候よ病人れ候  
いと候事いとぞと申候事いとぞと申候よ病人れ候



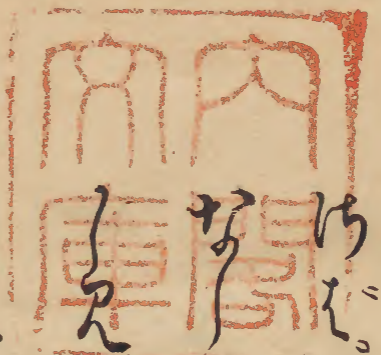
わし。係終れ時りなり。是也。増  
合掌。正念。あも。乱る。中。地。喜。薩  
此。宝号。よ。あ。の。眠。ま。く。に。性  
と。遂。ゆ。り。見。聞。乃。道。俗。男。女。の。信。仰  
誠。が。て。係。終。正。念。性。生。極。樂。れ。願。は。ん  
る。此。本。号。に。り。あ。り。ま。る。

第七本尊。此茶湯と。念。清。て。病。患。と。免。る。中  
下。京。通。り。家。ま。の。地。男。あ。り。せ。わ。る。る。の。心  
も。が。く。胡。文。れ。燈。も。縁。と。て。い。ま。り。地。の  
瘡。と。し。く。え。く。わ。の。る。醫。療。も。る。し

あ。の。心。が。ん。ま。の。ゆ。り。ま。れ。も。ま。ま。と  
か。く。心。次。才。は。の。ま。く。い。ま。り。の。心。か  
し。の。目。と。送。り。る。る。時。り。は。む。つ。か  
く。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま  
乃。れ。と。る。縁。と。て。い。ま。り。今。の。ま。ま。の。佛。喜  
善。乃。利。生。と。れ。の。行。へ。に。せ。れ。地。喜。喜。薩。に  
と。古。今。れ。靈。驗。あ。る。ま。ま。の。胡。野。乃。信  
敬。年。月。と。遂。て。い。ま。り。の。ま。ま。の。ま。ま。の  
の。乃。の。ち。よ。ま。の。ま。の。後。苦。與。樂。の。忠。信。と。れ。の  
か。ま。れ。此。茶。湯。が。ま。ま。の。ま。ま。の。頂。戴。し。る。

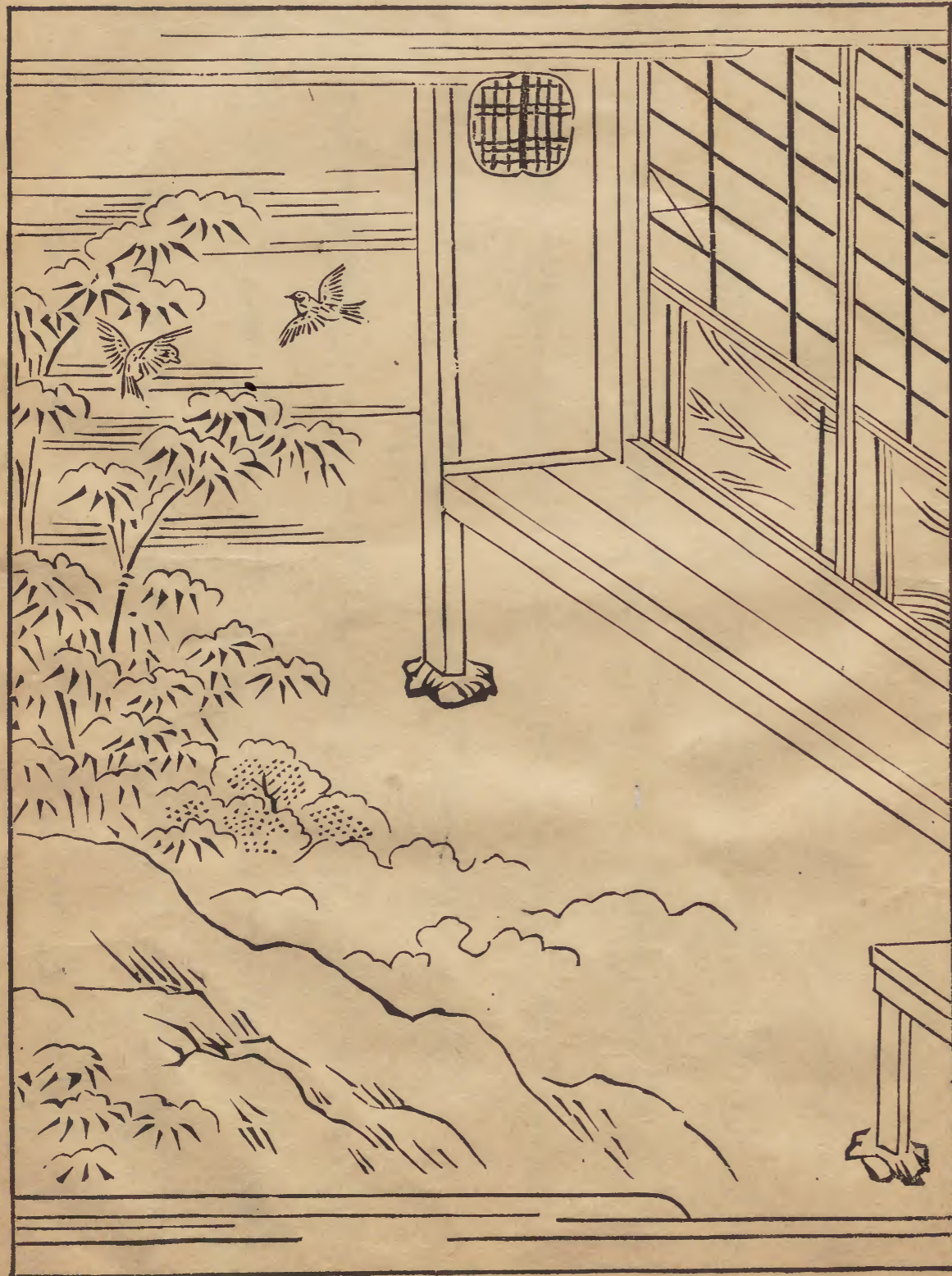
そのあつり利益と家より申せらるるに  
海ありて思ふに、わづらひしきめけり。病人を  
せに申し思ふに、さうく杖より申せらるるに、  
了。祈禱し、茶湯とて、至心頂戴  
して、家より申せらるるに、瘧もにらるるに、  
祈とて、さうく申せらるるに、成るるに、又んは  
とて、さうく申せらるるに、せられ、さうく申せらるるに、  
熱氣いりて、例より申せらるるに、  
えけし、地を喜落れ、利生も、さうく申せらるるに、  
お、祈とて、惘然とて、寝入るるに、

ふ、や、と、が、此、に、傳、乃、事、り、行、な、く、汝、家、と、祈、  
禱、し、茶、湯、と、服、せ、や、い、つ、も、病、の、愈、  
さ、し、申、す、は、先、此、に、汝、氣、と、さ、う、く、申、せ、ら、る、る、  
ふ、よ、し、ら、い、ち、く、我、と、恨、む、は、後、あ、そ、ふ、家、  
前、よ、ち、あ、て、さ、う、く、茶、湯、と、い、つ、も、心、念、と、凝、  
て、罪、障、と、懺、悔、せ、し、宣、は、く、海、り、汝、あ、や、  
え、く、さ、と、め、め、病人、と、い、わ、ら、り、何、と、さ、う、く、  
あ、く、さ、ら、る、る、お、め、け、し、い、つ、も、此、に、生、ま、さ、ら、  
て、殺、せ、れ、罪、と、懺、悔、し、又、此、茶、湯、と、い、つ、も、  
り、ち、ら、り、頂、戴、し、て、服、せ、し、は、次、乃、日、に、い、つ、も、



て。瘡氣<sup>くわき</sup>かけもがらるる。泣く思ふ諸佛  
 菩薩<sup>ぼさつ</sup>も。慈悲<sup>じひ</sup>とて體<sup>たい</sup>うけよ。あつら  
 其忠<sup>ちゆう</sup>教<sup>きやう</sup>と教<sup>きやう</sup>と。かく殺<sup>ころ</sup>生<sup>なま</sup>れ業<sup>ごう</sup>よ。な  
 けい。いづく心<sup>こころ</sup>う。あらんゆじん。今世<sup>こんぜ</sup>放<sup>はな</sup>生<sup>なま</sup>れ  
 して。諸病<sup>しよびやう</sup>此愈<sup>こゝ</sup>る。思<sup>おも</sup>い。殺<sup>ころ</sup>生<sup>なま</sup>して其苦<sup>くるしみ</sup>  
 せん。此中<sup>こゝ</sup>。必<sup>かならず</sup>死<sup>し</sup>れ。理<sup>こと</sup>なり。能<sup>あた</sup>く。あ  
 茅<sup>ちやう</sup>八<sup>はつ</sup>須<sup>しよ</sup>と焦<sup>あせ</sup>る。難<sup>がた</sup>とまぬ。中<sup>ちゆう</sup>  
 下京<sup>げきやう</sup>色<sup>しき</sup>。或<sup>ある</sup>女<sup>によ</sup>中<sup>ちゆう</sup>年<sup>ねん</sup>。此<sup>こゝ</sup>は。人<sup>ひと</sup>う。は。て。物  
 ぬ。あ。ま。ま。紙<sup>かみ</sup>して。世<sup>よ</sup>と。へ。り。ま。く。世<sup>よ</sup>乃<sup>すなは</sup>善<sup>ぜん</sup>因<sup>いん</sup>  
 へ。と。らん。に。威<sup>い</sup>儀<sup>ぎ</sup>乃<sup>すなは</sup>申<sup>まを</sup>急<sup>いそ</sup>く。此<sup>こゝ</sup>。地<sup>ち</sup>は。我<sup>われ</sup>喜<sup>よろこ</sup>薩<sup>さつ</sup>の

名号<sup>なごう</sup>と唱<sup>とな</sup>を。中<sup>ちゆう</sup>年<sup>ねん</sup>ころ。日<sup>ひ</sup>に。當<sup>あた</sup>り。寺<sup>てら</sup>此  
 本<sup>ほん</sup>寺<sup>てら</sup>氏<sup>し</sup>信<sup>しん</sup>傳<sup>でん</sup>して。い。ま。も。い。と。海<sup>うみ</sup>あ。ま。い。必<sup>かならず</sup>法<sup>ほふ</sup>  
 あり。ま。あ。て。二<sup>ふた</sup>世<sup>よ</sup>此<sup>こゝ</sup>。慈<sup>じ</sup>地<sup>ち</sup>と。か。ん。祈<sup>いの</sup>り。を。う。け  
 ある。時<sup>とき</sup>か。と。せ。ら。ま。ん。人<sup>ひと</sup>。此<sup>こゝ</sup>。親<sup>おん</sup>類<sup>るい</sup>の中<sup>ちゆう</sup>。よ。子<sup>こ</sup>う  
 こ。と。は。後<sup>ご</sup>に。して。齊<sup>せい</sup>ま。あ。は。は。え。は。を。て。此<sup>こゝ</sup>。女<sup>によ</sup>  
 め。と。せ。ら。ま。ん。と。て。に。明<sup>あき</sup>目<sup>め</sup>七<sup>しち</sup>夜<sup>や</sup>。か。れ。い。今<sup>いま</sup>日<sup>ひ</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>。地<sup>ち</sup>。よ。縫<sup>ぬい</sup>と。て。は。え。は。に。つ。て。い。つ。に。あ。く。ら  
 中<sup>ちゆう</sup>で。地<sup>ち</sup>。よ。か。け。て。う。く。ね。ん。と。り。火<sup>ひ</sup>。刺<sup>さ</sup>す。と  
 かく。れ。て。あ。る。ま。ら。て。焦<sup>あせ</sup>。り。り。あ。ら。う。と。う  
 も。い。や。白<sup>しろ</sup>粉<sup>こな</sup>。う。れ。物<sup>もの</sup>。か。ら。あ。ら。は。し。ま。り。付<sup>つ</sup>。



けましくあつて進むも音よりもけよ白と消のこ  
うまふはとちるる。文よまはれくもがをれん  
せんががとれや。目比れなりし中れ進い  
地蔵菩薩よりうへう進いて此難とともを  
とせ行へて折しと年れ善もも腹ふ。け  
てもき氣う。まへもあへんかんにあふらん  
垢離とらる。ま生れ方に向く南無地藏大  
菩薩。大悲大悲と改て此難と極くせ行へて  
一心うれとよけを。かくし。あまこいあ  
あまて。礼ねる。経る。方もこほり。骨よとよ

ま。命と後びんとし。かくておもめ方よなれ  
ま。志うく休息し。心よ志のめ。一心よ名号  
ま。びんとめんとけり。そてに夜めえれ進ぬれ  
ま。主人れ方らる。乃乃産衣縫きてけや也。  
ぬれおこせをれ。むねうらほく現たる産  
後とぬれ見れ。乃乃進進くる。而。餘乃  
不ういさう。かつ。白くうけり。あふる。此女  
ま。憫れ。何れ。欽。此れ。涙。と。現。人。何  
ま。あめ。ま。何れ。何れ。主人の使。ま。わ  
け。ま。主人。何れ。何れ。何れ。心。ま。何れ



111

中もかく。今日此用よまゐる。中よ。称美し  
 物りたり。も。後此乃冥助と感して。おと  
 ちも。皈依信仰し。なりける。し。山へ。おれ  
 しの。年。尼世尊。此菩薩と摩頂して。女神  
 カ不可思議なり。汝慈悲不可思議なり。汝  
 智慧不可思議なり。如讚歎し。行ふ。おの世  
 智辨聰の非軍と。乞号れ。靈應と見す。て  
 却て。誹謗し。あご。り。物。へ。け。と。十方  
 乃。法。佛。千。万。劫。と。経。ても。此。菩薩。不可。思  
 議。の。ゆ。ゆ。と。宣。は。く。も。中。あ。こ。り。や。と。記

行へ。ま。い。九。智。と。して。う。が。い。あ。と。と。ら。り  
 み。あ。し。ゆ。と。く。信。て。信。と。う。

茅九當寺此妙と受て産婦平安とゆま  
 當寺地藏尊乃此前と。砂と加持して。ま  
 産此守りやと。中。付。古。り。傳。く。と。と。ら。り。は  
 是。延。命。地。藏。經。乃。中。り。衆。生。よ。十。種。の。福  
 と。あ。と。く。行。ふ。も。女。人。奉。産。此。妙。と。第。一。と  
 説。行。へ。ま。い。懷。胎。此。女。人。乞。と。頂。戴。して。お。ま  
 ち。の。け。と。よ。ま。い。必。ず。産。ま。る。中。古。今。の。靈。驗  
 あ。ま。て。あ。と。く。へ。く。目。ぬ。へ。て。産。床。と。と。ら。り。ぬ

きハ必當あり。ゆゑとてゆりゆりの中にく。或は  
乞うせ。或はわつ。祀路を過出れ。執人目夜  
絶海中。なす。らる。見し。り。上京。り。家。見ゆ。へ  
ぬ。せ。や。を。と。む。を。先。一人。と。して。る。者。あり。本  
ら。と。罷。む。あ。さ。う。し。は。世。に。他。は。嫁。せん。中。氏  
ゆ。へ。ら。さ。ふ。に。心。も。を。て。あ。し。ら。や。ひ  
よ。え。せ。て。他。は。は。う。ゆ。り。な。ふ。程。が。く  
懐胎。し。ゆ。せ。い。の。い。れ。を。あ。と。い。か。け。を。れ。は。ら  
う。ぬ。く。心。も。や。も。う。ぬ。へ。父母。印。し。く。佛。神。と  
執。と。な。す。て。し。く。知。り。執。立。し。新。體。し

ゆ。り。に。十月。と。見。し。て。條。府。の。所  
ふ。見。て。三日。と。う。程。身。心。も。と。く。見  
て。い。く。と。さ。う。が。く。見。ゆ。り。け。せ。い。父母。親。族  
は。い。く。醫。療。を。は。ら。す。中。は。く。い。く。わ。く。ま  
か。く。佛。神。を。祈。り。是。と。え。り。や。と。悔。く。し  
え。つ。ゆ。せ。と。い。く。と。あ。し。も。見。て。せ。ん。さ  
ぬ。く。と。い。に。ま。り。ぬ。ら。う。と。い。く。と。あ。し。も。あ。り  
は。ふ。下。女。は。い。な。う。と。い。く。と。悔。く。し。せ。し。と。ゆ  
ふ。う。へ。が。ま。の。れ。中。い。く。も。論。が。し。思。い  
て。や。と。ぬ。せ。し。も。は。と。い。に。せ。し。は。妙。と。頂。戴



せりを行へ。見及んず及んぬ。靈驗あり。傍りや。中よりいひ。親類がこれ中にも。見えず。去りて。しと思んぬ。め。い。當り人よ。は。り。て。妙。と。信。産。婦。れ。に。物。を。戴。せ。れ。ば。中。に。と。く。く。が。つ。て。程。さ。く。お。産。し。母。子。も。に。つ。く。わ。く。元。来。産。唾。乃。信。於。深。重。が。信。力。堅。強。り。受。持。し。て。靈。應。が。く。て。や。茅。十。壇。供。功。徳。の。中。廿。小。呪。横。難。と。免。ゆ。半。當。り。た。の。く。毎。年。正。月。本。尊。地。花。喜。薩。

丁之世

乃。所。取。了。鏡。餅。と。そ。れ。つ。る。中。あり。と。は。洛。中。に。商。と。家。業。と。を。する。者。も。信。て。身。小。を。い。へ。護。持。し。て。祈。を。成。就。し。ぬ。と。も。衆。そ。し。ん。く。燈。明。料。を。と。く。と。亦。れ。分。際。に。後。て。也。は。く。れ。い。ち。借。法。と。か。ら。く。ひ。く。と。れ。い。他。の。債。と。負。と。も。財。寶。豊。饒。あり。て。諸。願。成。就。と。乞。に。依。く。と。ま。を。境。い。り。や。て。男。女。先。少。頂。戴。受。持。する。者。年。月。と。巡。て。い。や。ま。と。祈。り。其。外。に。壇。供。の。功。徳。に。依。て。成。る。無。實。に。説。と。の。く。也。刀。杖。等。に。難。と。

下之世



れども中諸方志録一が人れ口牌一普  
さ中。らましくおとくへに其申了。洛陽  
小伎黄乃術と業して。恒人あり。元々  
武列江府の産なり。京都に恒つきて。む  
そ先あましくあまきれども。男子なり。一  
年して。一人れ男子とまう。容儀群  
ふせぐれ。さういける。此物なり。にんさじん  
て。聰明なりけし。父母親おもしろ。て。  
養ふる。そ侍りも。此子三歳にけり  
秋れり。客人れ。あまきにして。鬼燈の空

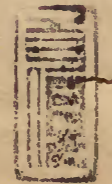
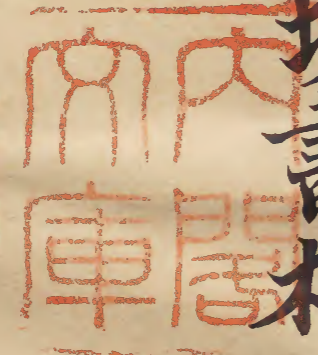
ともとめて。器うも。此ら。一。と。此子なふ  
やかくとめて。口ふ入る。う。や。い。お。神。  
谷あ見えれ。けん。と。に。さ。う。あ。て。お。も。入。も。や  
ら。じ。父。母。ま。ら。く。は。ま。く。に。一。侍。れ。も。い。一  
い。一。せ。ま。ら。い。あ。ま。い。あ。て。息。も。後。か。乃。ま。も。い  
ら。り。か。も。ら。い。あ。ま。い。あ。て。い。う。さ。ん。や。あ。ま。れ。よ。あ  
ら。る。に。あ。ね。が。り。け。ら。ひ。を。先。う。う。く。十。歳。う  
て。作。の。ら。ん。弁。あ。る。中。に。な。け。し。や。は。て。い。と  
見。ふ。よ。い。あ。ま。い。あ。て。母。も。い。あ。ま。い。あ。て。極。の。ま。ら。  
神。の。佛。の。行。生。と。お。ま。い。あ。ま。い。あ。て。あ。ま。い。あ。て。



乃<sup>ニ</sup>王<sup>ミ</sup>仕<sup>セ</sup>れ地<sup>チ</sup>産<sup>シ</sup>喜<sup>ガ</sup>蔭<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>壇<sup>ノ</sup>供<sup>ト</sup>とやん<sup>ト</sup>と  
 あ<sup>ハ</sup>く<sup>テ</sup>見<sup>レ</sup>行<sup>ク</sup>一<sup>ノ</sup>。家<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>れ<sup>ル</sup>と<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>底<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>  
 と<sup>ハ</sup>記<sup>ス</sup>ら<sup>レ</sup>て<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>中<sup>ニ</sup>出<sup>ス</sup>と<sup>ハ</sup>せ<sup>レ</sup>に<sup>ハ</sup>も<sup>ト</sup>て<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>け  
 け<sup>リ</sup>。あ<sup>ハ</sup>よ<sup>ク</sup>う<sup>ク</sup>入<sup>テ</sup>飲<sup>セ</sup>た<sup>レ</sup>ら<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>一<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>二<sup>ノ</sup>口<sup>ノ</sup>喉  
 入<sup>リ</sup>と<sup>ハ</sup>見<sup>レ</sup>ま<sup>シ</sup>。世<sup>ノ</sup>の鬼<sup>ノ</sup>燈<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>ま<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>に  
 て<sup>ハ</sup>唯<sup>ニ</sup>う<sup>ク</sup>う<sup>ク</sup>う<sup>ク</sup>も<sup>ハ</sup>後<sup>ニ</sup>何<sup>カ</sup>れ<sup>ル</sup>と<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>て  
 じ<sup>ハ</sup>け<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>と<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>シ</sup>。父<sup>ノ</sup>母<sup>ノ</sup>う<sup>ク</sup>ま<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>た<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>て  
 當<sup>チ</sup>よ<sup>ク</sup>詣<sup>テ</sup>。ガ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>信<sup>ト</sup>仰<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>う<sup>ク</sup>て



元禄十五歲合壬午春正月穀旦  
 華洛宣風坊書林井上實氏壽梓



丁之十四

